

No.146

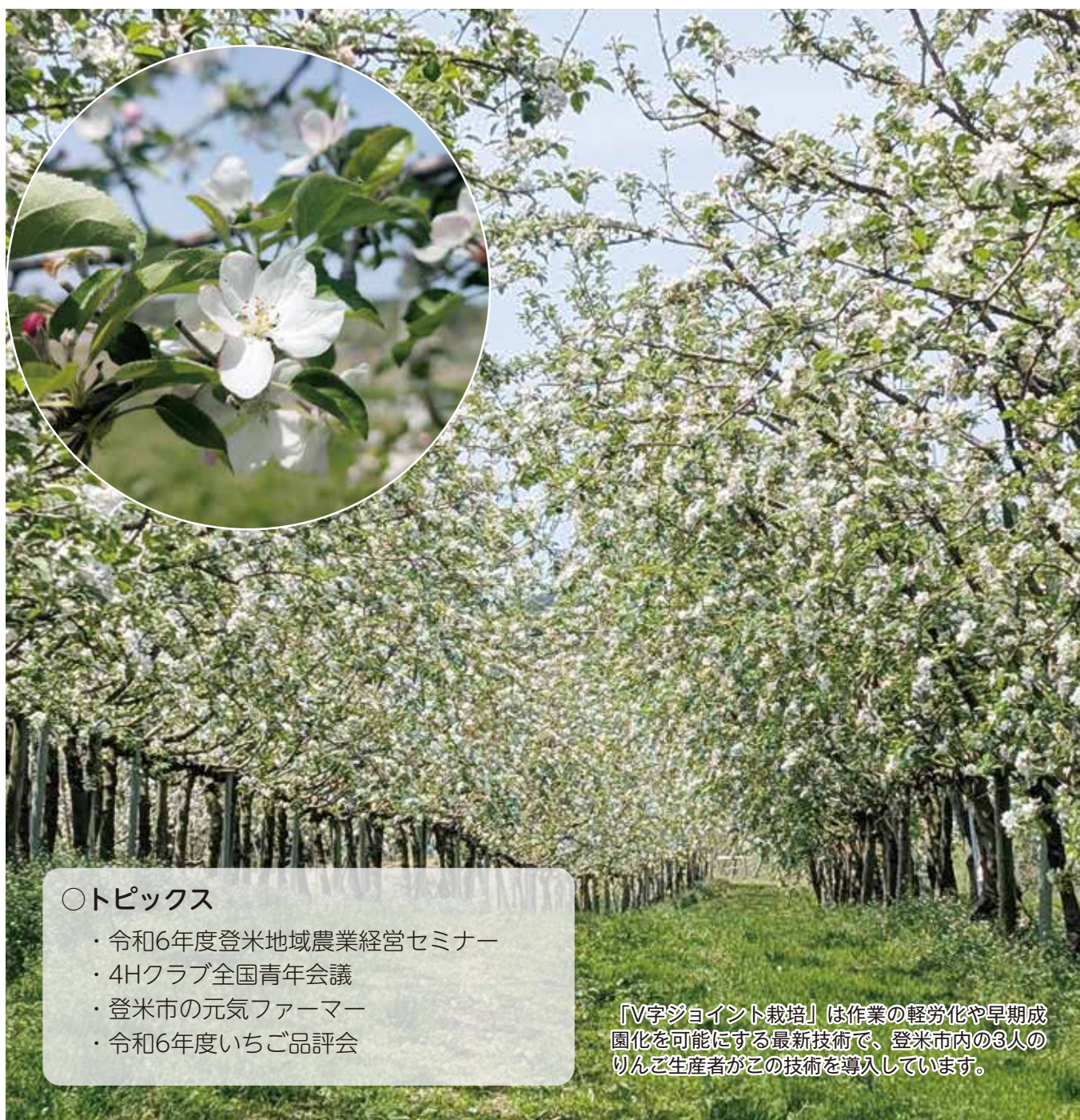
えんじゅん



昭和51年12月15日創刊

宮城県登米農業改良普及センター
～人と技術が織りなす活力ある登米農業～

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
TEL (代)0220-22-6111 FAX 0220-22-7522
E-mail: tmnokai@pref.miyagi.lg.jp
URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



○トピックス

- ・令和6年度登米地域農業経営セミナー
- ・4Hクラブ全国青年会議
- ・登米市の元気ファーマー
- ・令和6年度いちご品評会

「V字ジョイント栽培」は作業の軽労化や早期成
園化を可能にする最新技術で、登米市内の3人の
りんご生産者がこの技術を導入しています。

プロジェクト活動の紹介

No.1 加工用ばれいしょ生産中・長期計画策定と生産体制構築

登米地域では、実需者との契約による加工用ばれいしょ栽培が行われています。令和3年には「登米ぼてと組合」が発足し、組織的な取り組みが行われるようになりました。栽培面積は令和6年度実績で15.1haとなっており、また、農地整備事業計画地区での高収益作物の候補として検討されるなど、注目が集まっています。

登米ぼてと組合では、今後の加工用ばれいしょ振興に向け、産地の方向性や将来像、支援機関による役割等を明確化した中・長期計画の策定が課題です。普及センターでは、関係機関と連携し、生産者自身による中・長期計画策定と生産体制構築への活動を支援します。

○組合活動・体制構築支援

中・長期計画の策定、収穫作業を含む出荷体制の整備、さらには登米地域に適した栽培マニュアルの作成を通じて、高品質なばれいしょの安定生産を支援します。

○栽培技術向上支援

加工用ばれいしょの安定生産に向け、現地検討会等の開催を通じて生産者間の情報交換など、生産技術向上を支援します。

○技術・経営評価支援

栽培環境のデータを収集・分析するとともに、実施した技術対策や栽培体系の経費や労力等の評価を行い、効果の検証を行います。



植え付け前の種芋の様子

No.2 農地整備を契機とした地域営農構想の実現

登米市中田町の上沼桜場地区では、令和3年に地域営農構想を策定しました。水田の大区画化やスマート農業を展開するため、令和8年度農業競争力強化農地整備事業（受益面積51.5ha）の活用を目指しています。促進計画書では、新規設立予定の1法人を含む4法人を担い手として位置づけ、農地の集積・集約化や高収益作物として園芸作物の導入が計画されています。

普及センターでは、法人設立に向けた経営計画の検討や高収益作物の安定生産等、関係機関と連携し支援していきます。

○法人設立支援

担い手の法人設立に向けて、経営計画の検討や先進経営体視察研修等を支援します。

○高収益作物の栽培支援

園芸作物の栽培技術向上に向けて、加工用ばれいしょ等の試作を支援します。

○担い手会議の開催支援

地域営農構想の具体化に向けて、担い手会議等の開催を支援します。



担い手会議の様子

No.3 環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立

登米地域は環境保全米の作付面積が県内1位ですが、担い手の減少などから面積は減少しています。一方で、省力化技術である乾田直播栽培への取組は増加傾向にあり、乾田直播栽培での環境保全米の適用を期待する声があがっています。

そのような中、令和6年11月に「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」において、乾田直播栽培の減農薬・減化学肥料の基準（農薬成分10成分以下、化学由来窒素6kg/10a以下）が設定され、乾田直播栽培の環境保全米適用に向けた機運が高まっています。しかし、農薬成分や化学肥料の使用量が制限されるため、雑草防除や肥培管理などの難度がさらに増します。そこで、減農薬・減化学肥料の基準での乾田直播栽培展示ほを設置し、課題解決に向けた栽培技術支援を行います。

○施肥および除草体系の検証

展示ほを設置し、雑草管理や肥培管理などの栽培技術支援を行い、収量及び品質の安定確保を目指します。

○省力化技術の導入・活用支援

栽培管理システムを活用し、AI解析による適期防除や衛星画像から生育状況の把握、また、可変施肥による生育の均一化の検証を行います。



栽培管理システムを活用した可変施肥作業の様子

登米地域農業経営セミナーを開催しました

令和7年1月17日(金)に、登米合同庁舎で「登米地域農業経営セミナー ～農業における人材確保と労務管理を考える～」を開催し、管内農業法人及び関係機関40人が参加しました。

※
すずき労務経営コンサルタツの鈴木大輔代表からは、勤務形態別の雇用確保のポイント、daywork活用時の保険の他、外国人活用のための就労スタイルなどについて、わかりやすく説明をいただきました。

(有)川口グリーンセンター(第53回日本農業賞大賞を受賞、栗原市)の白鳥正文代表取締役からは、法人の事業内容、社員の適性に合わせた配置と労務管理など、実践している内容の紹介の他、「個人の性格を把握し、会話の仕方などを変えている」など、経営者として心がけていることについても説明いただきました。

参加者からは「休業・休職制度の活用といった労務管理の選択肢が増えた」「責任と権限を与えることでやる気に繋がる重要性が感じられた」といった意見が聞かれました。

人材不足や資材価格高騰など、農業を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、普及センターでは今後も経営向上に向けた支援を行ってまいります。



経営セミナーの様子

※dayworkとは…1日単位で働ける仕事。生産者が掲載した1日単位の仕事に、求職者が直接応募できるシステムが広く使われている。

「第63回全国農業者青年会議」が開催されました!

令和7年3月11日(火)～12日(水)にかけて、「第63回全国農業者青年会議」が国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に開催されました。本大会は、日本全国から若手農業者が集まり、自身の農業を通して体験した成果の発表を行い、参加者同士の交流の中で課題解決と今後の発展に向けてのヒントを得ることを目的に開催されています。

東北代表として宮城県からは2人が発表者として選出され、登米市4Hクラブ所属の大立目拓也氏が畜産経営部門で「無添加WCSの可能性とカラス対策について」の発表を行いました。自らの取り組みをまとめ、多方面より意見をもらうなど良い機会となりました。



発表する大立目拓也氏

登米市の元気ファーマー



※左 新谷さん 右 鈴木さん
右下 ハットバスタ

すずき はるか
鈴木 遥丈さん(中田町 露地野菜)

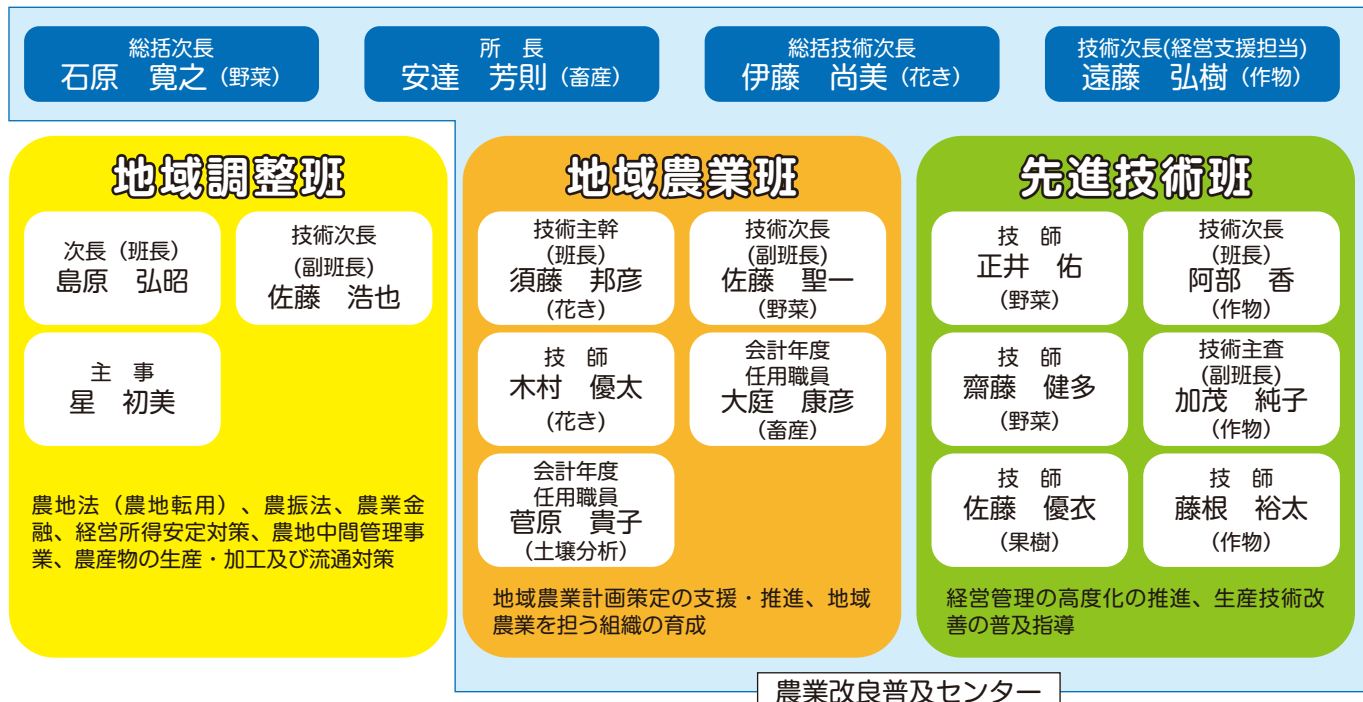
鈴木遥丈さんは、令和6年11月から中田町で農家レストラン「畑と手と水」※を経営しながら、少量多品目で露地野菜(20a)を栽培しています。鈴木さんは農業大学校を卒業後、自分で農家レストランを経営してみたいと考え、令和6年4月に登米市に移住しました。現在は高校時代からの仲間である新谷さんと共に無農薬栽培の農業に取り組んでおり、栽培した野菜は料理に取り入れているのは勿論、店頭で直売も行っています。

今後について何うと、「自然、農業、レストランを上手く組み合わせた「新しい農業」を皆さんに楽しんでいただきたいと思います!」と意気込みを語ってくれました。

レストランのランチメニューでは、地元のおばあちゃんから教わった、登米地方の郷土料理「はっと」から考案した「ハットバスタ」を提供しています。ぜひお立ち寄りください!

※住所: 登米市中田町浅水鮎川田227

東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部・登米農業改良普及センターの紹介



「令和6年度宮城県農林産物品評会」で登米のいちごが入賞しました!

令和7年2月17日(月)～18日(火)に、JAビル宮城で「令和6年度宮城県農産物品評会(野菜(いちご)部門)」が開催されました。

いちご部門は2年目の開催で、5品種35点の出品があった中、藤欠徳和氏(米山)の「もういっこ」が、見事、知事賞3等に入賞しました!

藤欠氏は2年連続の受賞となり、JAいちご部会としても大変うれしい出来事となりました。



露地園芸品目を導入する方必見!! ～水田を活用した露地園芸品目導入の手引き(第5版)の紹介～

宮城県農業・園芸総合研究所では「水田を活用した露地園芸品目導入の手引き」を令和3年度に発行しています。これは、水田において露地園芸品目を機械作業により導入する場合、栽培、労働力及び収支の面から検討に使える資料です。その後、掲載内容を追加するたびに改訂が重ねられ、このたび第5版が発行されました。

これまでに、ねぎ、たまねぎ、キャベツ、加工用ばれいしょ、ゆきななど、露地野菜全9品目が掲載されています。この手引きには、品目の特徴、作業内容・時期、10a当たり必要労働力及び収支等がまとめられています。また、パソコン上で経営シミュレーションシート(Excelファイル)を使用し、水稻や大豆を含め、各品目の面積等を入力すると、簡単に経営シミュレーションができます。これら電子ファイルは、下記問い合わせ先のHPから入手可能です。将来の農業経営の検討資料として是非ご活用ください。

問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所情報経営部

電話：022-383-8119

